



ある外科医の憂い



那覇西クリニック 長嶺 信治

今回「若手コーナー」への寄稿依頼があり、ふたつ返事でいいですよと返答してしまったが、今になって少し後悔している。正直若手医師に明るい未来を提案できない自分が居るからである。他の診療科に関しては十分把握していないので、私が専門としている外科に関して今までの経験と、現状と希望を書かせていただきたいと思う。

私が外科医を目指したきっかけは非常に単純な動機であった。自分の技術を駆使して病める方に貢献したい、ブラックジャックへの憧れのようなものであった。それならばやはり花形の心臓外科医になりたいと思いきや医局に入局したのであるが、現実には厳しいという事にすぐ直面した。十年以上の経験をもつ先輩医師がほとんど術後管理にのみ日々追われている姿を目にしたからである。今の研修医のように2年間の臨床経験を積んでから自分の道を決めるというシステムではなかったため、医局の現状を十分把握していなかったのである。

外科医はやはり自分の腕を磨き経験しなければならぬと考えていたので、すぐに方向転換をする事が出来た。幸い先代の教授の尽力により、多くの関連病院に派遣させていただいたので、忙しいが、色々な経験を積む事ができた。救急外来、手術、術後管理、麻酔等、教科書には書いていない、書く事が出来ない事をいろいろ体験させていただいた。術前に若輩の身である私に体を託して下さった患者さんや家族の思いを感じ、何度も頭の中で手術の手順を反復する。もちろん手術は全て予定したようにはいかないのが常であるが、何とかうまく終了した後

の充実感はやはり外科医でないと分からないのではないかと思う。今でも外科医を続けているのは、他の人には経験出来ないことをしているという充実感ではないか。しかし、術後の経過も必ずしもうまくいくとは限らず、少なからず合併症も経験する。その時によく患者さんの訴えを聞き、十分観察しなさいと教えられ、自分なりに実践してきたが、それが今の自分の宝になっている事はいうまでもない。医局の諸事情によって1年から2年間で関連病院に移動し、そこで研修を積んできたが、現在の医療情勢、医療経済はやはり厳しく、それぞれの病院で生き残りをかけて必死に努力をしている。もちろんその矢面に立たされるのが私たち医師であるが、時には外科とは関係のない仕事までやらなければならない。なんともやりきれない気持ちで取りこんでいたのであるが、今になって案外役に立っている事が多い。それぞれの病院に良い面と、改善すべき面が同居するが、それを垣間見えた事は、今になって自分がいかに振舞うべきかを決める時にかなり役に立っている。

30歳半ばを過ぎ、ある程度の事が出来るようになってくると、今後いかにして生きていくべきかを考える。何を専門とすべきか、どこで修行すべきか、これは若い医師が必ず通る道なのではないか。医局を辞して他で研鑽を積もうかと考えていた折に、一緒に仕事をしてみないかと声をかけていただいた。医局の関連施設ではなく、周りからも賛否両論があったが、それが今の職場である。人との出会いは本当に不思議なもので、一期一会の精神を忘れずに日々過ごしていきたいと感じる毎日である。

先日、日本外科学会に参加したが、会長講演でも「外科医の地位向上に向けて」が大きなテーマであった。現在産婦人科、小児科の減少が叫ばれ行政もようやく重い腰を上げはじめているが、昨今の医療費抑制政策によって10年後にはこのままでいけば外科医志望が0になると報告されていた。これは極端な話しではあるが、一概に否定できないところもある。減少の理由として労働時間が長い、時間外勤務が多い、医療事故のリスクが高い、訴訟のリスクが高い、賃金が少ないがそれぞれ70%に達していた。また、自分の仕事に満足かとの質問に対しては50%以上が満足と答え、ただし後輩には勧めないが30%近くに達していた。つまり面白いが昨今の現状を踏まえると大変であるので後輩には勧めないとの意見である。外科医自体、そもそも自分自身がある程度満足出来ていればそれでよし、とするとところが多く、現状に対して我慢してきた事がこのような状況を招いている

のではないかと痛感した。若い医師は昨今の医療情勢に十分な情報を持っているし、医局という大樹にも頼れない。ある意味私たちの時代よりも将来の医療に対して敏感で真剣に考えているかもしれない。このような状況下で外科医を志望する人が増えるとはやはり思えない。今後このような状況を変え、多くの若手医師に志望されるように外科医一人一人が言うべき事は云い、訴えるべき事は訴えていかねばならないのではないかと痛感した。

臨床医としてメスを置く時に、自分がやってきた事に対して自分自身が納得できるように日々研鑽を積み、真摯に自分の与えられた事に対処していきたいと思う。努力し、がんばった人が報われ、さらに小児科や外科系を希望する若い医師が増えてくれる世の中になるように、と決意を新たにし、私の寄稿とさせていただきます。

原稿募集！

「若手コーナー」(1,500字程度)の原稿を随時、募集いたします。開業顛末記、今後の進路を決める先生方へのアドバイス等についてご寄稿下さい。